

2008 年度 春学期 コ・モビリティ社会の創成(大学院)
(システム分析・設計特論)

月曜日 4時限(14:45-16:15)・慶應義塾大学工学部矢上キャンパス 12-211 室

21 世紀初頭における我国の課題は急激な高齢化, 少子化にともなう社会問題を解決することである。特にモビリティの確保と, コミュニティの形成が, 福祉, 健康, 教育, 環境など地域における生活分野に大きな影響を与えると考えられる。慶應義塾大学が申請した「コ・モビリティ社会の創成」が文部科学省の「先端有効イノベーション創出拠点の形成」というスキームの一端として採択され, 2007 年度から研究活動を開始している。この研究には 4 学部から約 50 名, 協働機関 5 社の研究者等を合わせると約 200 名の参加があり, まさに領域を超えた産官学の共同研究プロジェクトである。

本講義では, モビリティの確保と新しいコミュニティの形成のために ICT をはじめとする最新の研究成果を統合化し, 融合化するための手段として対象とする社会システムを分析し, 提案するシステムを設計していくプロセスを, いわば同時進行で学生諸君に紹介していこうというものである。

回数	開講日	テーマ/担当講師(敬称略)	主な内容
1.	4/14	講義ガイダンス 慶應義塾大学 川嶋弘尚	・モビリティの現況と課題 ・ICT 時代のコミュニティ ・コ・モビリティ社会の創成による課題の解決
2.	4/21	人間調和科学の概要 慶應義塾大学 小川克彦	・コ・モビリティ社会における人間調和科学の役割 ・コ・モビリティ・ビークルのシミュレータ開発 ・将来の生活空間や公共空間のデザイン
3.	4/28	情報通信科学の概要 慶應義塾大学 佐藤雅明	・コ・モビリティにおける情報通信の役割 ・インターネット自動車 ・インターネット移動体通信
4.	5/12	コ・モビリティにおける KDDI の役割 KDDI 鈴木雅実	・情報通信からライフスタイルナビゲーションへ ・コ・モビリティ社会で期待される ICT 応用技術 ・地域コミュニティのコミュニケーション支援に向けて
5.	5/19	電気自動車デザインとモビリティ科学 慶應義塾大学 江本聞夫	・自動車デザイン概論 ・自動車の電動化とデザイン ・コ・モビリティ移動体デザイン
6.	5/26	コ・モビリティ社会創生に向けた NEC の取り組み NEC 山崎俊太郎	・コ・モビリティ社会を支える情報通信環境の紹介 ・このために必要となる新技術の紹介 ・この環境上で可能になる、ソーシャルキャピタルを高める新しいサービス、ソリューションの紹介
7.	6/2	クラスディスカッション 慶應義塾大学 川嶋弘尚	
8.	6/9	コ・モビリティにおける OKI の役割 OKI 福井良太郎	・コ・モビリティ社会と情報通信基盤 ・コ・モビリティ社会と ITS 技術 ・モビリティ科学における移動通信技術
9.	6/16	コ・モビリティにおける DNP の役割 大日本印刷 後上昌夫	・情報コミュニケーション産業 DNP ・インターフェイス技術としての電子メディア ・よりよいコミュニケーション環境の実現に向けて
10.	6/23	コミュニティ科学の概要 慶應義塾大学 金子郁容	・コミュニティ・ソリューションという考え方 ・コミュニティのソーシャルキャピタル ・複合的コミュニティからコ・モビリティ社会まで
11.	6/30	コ・モビリティにおける FM TOKYO の役割 FM TOKYO 藤勝之	・デジタル時代の放送形態 ・コ・モビリティ社会の放送の役割
12.	7/7	コ・モビリティ社会の実証実験 慶應義塾大学 太田 純	・研究開発から社会適用へのプロセス ・社会実証実験の位置づけと概要
13.	7/14	コ・モビリティ社会構築に向けたソシオストラテジー 慶應義塾大学 西山敏樹	・「日本型」のユニヴァーサルデザインとエコデザインの融合 ・「人間中心型」の生活環境作りによる社会コストの低減戦略 ・コミュニティとモビリティのインターフェイスの未来について

対象: 開放環境科学専攻大学院生, 他専攻大学院生, 学部学生も聴講可

※昨年度の講義内容は, ホームページで見ることができます。 <http://www.its-lectures.ae.keio.ac.jp/>